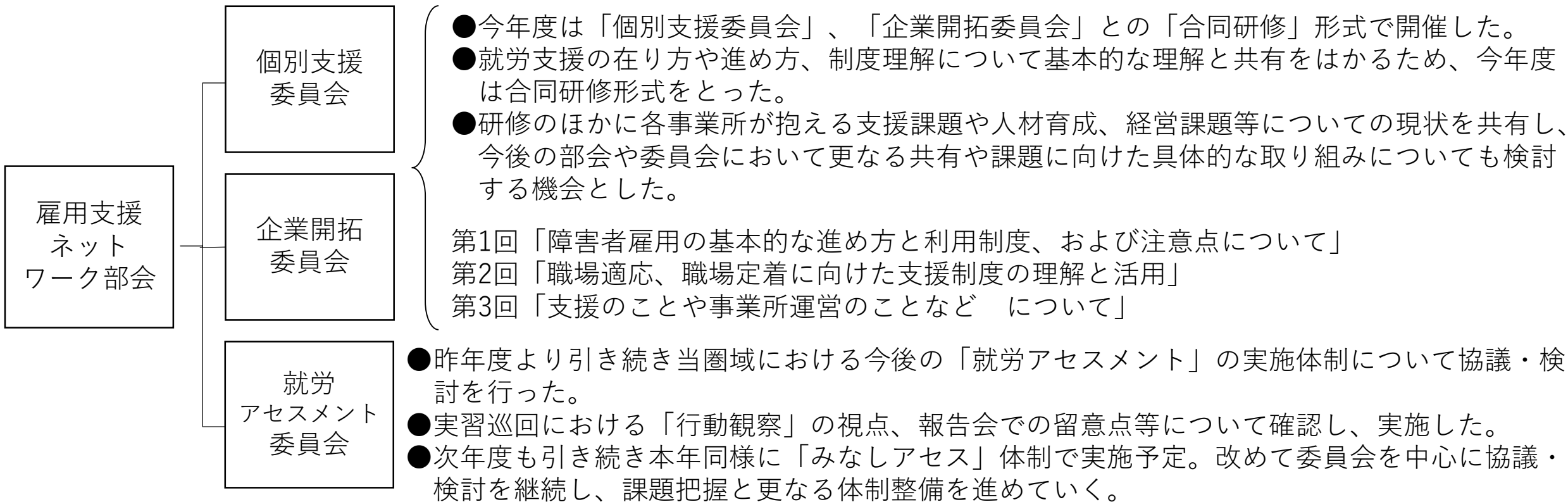


令和3年度部会活動報告

1、雇用支援ネットワーク部会

【目的】 障がい者の企業への就職と職場定着をより一層進めていくための、関係機関による連携協力体制の構築を目指し、働きやすい地域の体制創りの推進を目的とする。コロナ禍の社会・労働情勢に沿った就労支援の在り方について、地域としての協議を進める。



【来年度に向けて】

- ・「就労アセスメント委員会においては「みなしアセスメント」の継続実施のため、協議・協力体制の整備に努めた。今後も継続し、アセスメントスキルおよび対象者へのフィードバックスキルの向上を中心に取組んでいきたい。
- ・圏域内の各関係機関における支援課題の整理や支援力の向上とよりタイムリーな情報共有を行い、部会を通じて積極的な地域の体制づくりをすすめる。

2、本人中心部会

【目的】 障がいのある方がこの地域で安心して自発的に生活できるよう、ニーズに沿ったより良いサービスが提供できる地域をつくるために活動する。当事者が積極的に活動できる場を広げ、当事者主体の活動を後方支援していく。

本人中心部会

ニーズ聴きたい・つなげたい

●当事者の想いの受け止め活動を継続。コロナ禍であるため、今年度は、対面ではなく、アンケート形式で実施。生活に必要な情報、特にコロナ関連や災害に関する情報をどのように得ているかを伺った。伺った内容から課題等を精査し、次の活動につなげていく。

いって見てやって委員会

●地域のさまざまな資源を気軽に見て頂く事で生活の中の選択肢を広げて頂けるよう、当事者向けの見学・体験会を実施。ウェブを活用して、以下の2つの見学会を実施。
①暮らしの場所見学会…グループホームと「おためしハウス205」を紹介
②働く場所見学会…就労継続支援B型事業所「クローバー」を紹介

地域にでかけ隊

●昨年度の想いの受け止め活動から、余暇に関する情報が十分に伝わっていないことが見えてきたため、障がいのある方にもわかりやすく情報が届く様、情報提供の方法等について検討。今年度は障がいのある方向けの講座の実施されている中野市社会福祉協議会に、講座のチラシにルビを振ってもらえないか等相談に伺った。今後も取り組みを継続していく。

【来年度に向けて】

- ・委員会毎、連携を取りながら、部会活動を継続していく。また内容によって他部会等とも連携をとっていきたい。
- ・当事者の声を地域に反映できるよう取り組みを継続していく。

3、サービス向上部会

【目的】 地域の支援力の底上げをめざし、障がい理解や適切な支援ができる人を地域に増やしていく事を狙いとする。また、横のつながりを大切にし、情報共有の中から地域の課題の把握・提案を行っていく。

サービス向上部会

- 今年度のテーマを「つながる」とし、支援者同士・事業所同士のつながり、地域資源とのつながり、他部会とのつながり等、様々なつながりを意識して、部会活動を行ってきた。
- 現場支援者に向けた研修会を企画。ZoomやYouTubeも活用し実施した。
第1回「“怒り”の理解と対応～利用者の怒りへの対応と支援者自身のアンガーマネジメント～」
第2回「発達障がいとは～障がい理解キホンのキ～」

暮らしの場グループ

- グループホーム入居者の高齢化に伴う課題について意見交換した。
- 地域の方に理解していただく難しさを感じており、地域の方との関り・交流などについて情報交換した。

ヘルパーグループ

- コロナ禍でのサービス提供や時間短縮等の基準について情報交換した。
- 利用者への声掛け方法、ヘルパーが固定してしまうケースへの対応等、現場の支援について意見交換した。

児童発達支援ネットワーク

- 放課後等デイサービス利用児のサービスからの卒業や、事業所移行の事例をもとに意見交換をした。お子さんの成長に合わせた支援が行えるよう、事業所間の連携強化、児童クラブとの連携等について、来年度検討していきたい。

【来年度に向けて】

今後も年間のテーマを設け、活動を行っていく。研修会については、ZoomやYouTubeを活用することで、参加しやすさを向上させたり、事業所内の研修会にも活用して頂けるようにしていく。

4、精神部会

【目的】 精神障がいの方が、住み慣れた地域を拠点とし、ご本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、医療・保健・福祉等で連携して支援が行える体制を構築していく。更に啓発活動等を行い、安心して暮らし続けていける地域づくりを目指す。

精神部会

●精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた協議
退院支援、地域への啓発、地域資源の充実等、必要な課題検討を行い、地域づくりを行っていく。そのために、2つの委員会を設けて課題検討を行う他、部会全体で以下の様な取り組みを実施。

- ①「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」について改めて学習会を実施。（第1回部会）
- ②事例の共有「入退院を繰り返している事例」（第2回部会）
- ③ピアサポーターの養成についての学習会（第4回部会）
上小圏域における取組を教えて頂き、北信圏域で今後どのような取り組みが行えるか意見を出し合った。
- ④地域資源マップの改訂・配布（9月）

地域移行支援 マニュアル 作成委員会

- 入院する際に必要な情報が共有できるよう、現在ある利用者情報提供書について、病院関係者、地域支援者の声を聴きながら作成。来年度は実際使ってみて、改訂していきたい。
- 来年度は、退院までの支援の流れの確認や、退院先の居住の実態把握等、退院支援について検討していきたい。

普及啓発 委員会

- 地域に向けた啓発を行うため、統合失調症をテーマに広報紙を作成。①当事者個人の紹介、②地域の相談窓口等資源の紹介、③病気についての紹介の3項目で構成。来年度配布し、その効果等検証しながら、今後の啓発活動の内容も考えていきたい。

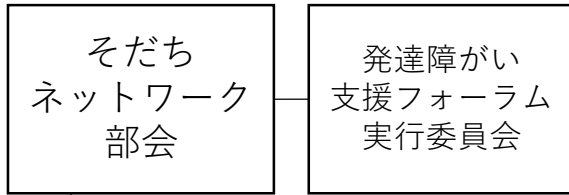
【来年度に向けて】

精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、協議を継続していく。

5、そだちネットワーク部会

【目的】 様々な障がいや困り感をもっている子ども及び家族の気持ちに寄り添いながら、子どもや家族を支える地域の関係機関の連携体制を構築していくこと
～3つの基本的柱～

①子どもの困り感や特性に合わせた支援 ②家族の気持ちに寄り添う支援（障がい受容の伴走者であること） ③関係機関のネットワーク機能の充実



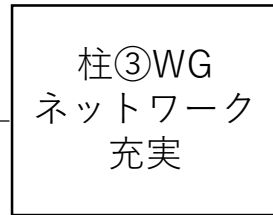
●今年度はコロナ禍の影響で話し合いができなかったため、来年度は検討していく。



●昨年度から継続して質問のテーマに沿って、6市町村の情報交換を行ってきた。その中で市町村の教育委員会によって仕事内容や分担が違うことも解ってきた。より共通した内容で深められる議論をするために、テーマの選定を検討していく。



●今年度は新たなテーマとして「子どもに関連した補助の制度が、必要としている家庭に届くための工夫」を取り上げ、本ワーキングで扱う内容や範囲について検討してきた。今後の流れとして、まずは制度の内容や対象者を容易に把握できるようなツールを作成し、必要なタイミングでその時の軸となる支援者が家庭へと情報提供ができる体制を整えていく。来年度は各市町村へアンケート調査を行い、圏域内の子ども関連の制度を網羅したリストを作成するところから始めていく。



●保育所等訪問支援・園訪問・児童館・児童クラブ・教育相談について各市町村の現状と課題についてアンケートを実施した。課題の中から保育園から小学校・中学への移行時の仕組みの重要性を共有し個別の支援計画「つながる」の活用状況も調査し課題を検討していく。

【来年度に向けて】

・発達障がい支援フォーラムについて、来年度は会議を行い検討していく。

6、重心・医ケア部会

【目的】北信圏域に住む医療的ケアが必要な障がい児等とその家族が抱える実態や支援体制の現状と課題を把握し、支援を行う関係機関が連携してその課題解決に取り組むことにより、医療的ケアが必要な障がい児等が地域で安心して暮らしていくことができる体制を構築する。

重心・医ケア部会

地域連携PJ ～医療との連携～

- スムーズに退院支援が行えるよう、地域の相談窓口、医療・保健・福祉それぞれの役割やつなげるタイミング等がわかるよう、「退院時マップ」の作成に向け検討。①命を守る軸、②生活を支える軸の2軸を大切にたたき台を作成。母子保健担当連絡会議と共催で、県立こども病院の退院支援の仕組み等について学習会を実施。来年度は、病院と連携した事例を出し合い、連携をイメージできるものを作成していきたい。

地域課題PJ

- 医療的ケアが必要なお子さんが利用できる地域資源について検討を行っているが、今年度については、災害時に備え、個別避難計画の作成を優先的に検討。個別避難計画のシートを作り始めている。来年度は、個人情報の取り扱いに十分配慮し、実用化できるようにしていきたい。また国の動向についても、情報共有できる機会を作していきたい。

親の会PJ

- 親の会学習会『新型コロナウイルスからお子さんを守るために』をYouTube配信で実施。100名を超える方に視聴して頂けた。
- 来年度は対象児を再度検討し、またコロナの状況を踏まえ、親の会のねらい、開催方法、内容等検討したい。

【来年度に向けて】

各PJでの課題検討を継続し、医療的ケアが必要なお子さんやそのご家族が安心して暮らしやすい地域づくりを目指していく。

7、権利擁護部会

【目的】 障がい者、高齢者等の権利をどう支えていくかについて、幅広い観点から、関係機関の連携協力体制を強化していく中で、誰もが住みやすい街づくりを目指していく。

権利擁護部会

- 部会員自身の学び・理解を深めるため、「権利擁護」に関する部会内研修会を実施。日々の支援の中で感じる「権利擁護」に関する疑問や戸惑い等について意見交換した。（第3回部会）
- 様々な視点を学び、今後の支援の参考になるよう事例検討を実施。「高齢の母と精神障がいの息子の生活について」（第5回部会）
- 長野県権利擁護部会の内容について共有し、県の動向や他圏域の取組みも参考にしている。

啓発・研修PJ

- 部会内研修の準備・実施を担当した。
- 啓発活動を予定するも、コロナの影響で中止になるものもあった。ただ実施に向けて準備を行う中で気づく事も色々あった。今後はYouTubeやローカルTVも活用した啓発活動も検討していきたい。

成年後見PJ

- 成年後見制度に関する相談の一時窓口として対応力向上を目指し、研修会「親亡き後のお金と制度知識として知っておくべきこと～日常生活自立支援事業と成年後見制度のちがい～」を実施。
- 北信圏域として、成年後見制度利用促進の中核機関が設置されたことを受け、PJの在り方自体を見直し、来年度はテーマを変更する方向となった。

差別解消運営PJ

- 障害者差別解消法や相談窓口を地域の方にも知って頂けるよう、広報紙を作成した。法改正に伴い、今後事業者にも合理的配慮の提供が義務化されるため、事業者への周知に活用していきたい。
- 差別事案の相談受付練習を実務者会議で実施。今後行うことで、実際に相談があった時にスムーズに受付ができるようにしていきたい。

【来年度に向けて】

PJ構成の見直しを行い、権利擁護に関わる取組みを充実させていく。

8、幹事会

【目的】北信圏域の障がい者福祉の現状と課題を踏まえながら、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向けて、さまざまな検討協議を行う。また、協議会が円滑かつ効果的に機能するための検討協議を行う事を目的とする。

幹事会

- 相談支援専門員の活動報告や、各部会、委員会等からの提案・報告を受け、地域の課題について検討を行った。
- 第6期障害福祉計画及び第2期障害児福祉計画が今年度よりスタートした。各部会と連動しながら計画を推進し、着実に推進していけるよう半期毎進捗管理を行っている。

市町村課題 検討WG

- ケアプラン研究会にて、サービスの支給決定を行う行政の立場から見た適切なプランの学習や、支給決定を行うにあたり悩むポイント等を共有した。
- 圏域内の相談支援専門員との情報共有・意見交換会を2回実施した。抽出された課題について、部会とも連携しながら協議を行った。
- 障害福祉計画に盛り込まれた「障害者自立支援審査システムの結果の共有」に関し、毎月の支払いにおける審査でエラーとなるケースについて集約し、特にエラーが多いケースについて、対策等の検討を行い、Q & Aにまとめ管内事業所へ通知することにより共有を図った。
- 今年度より主任相談支援専門員に参加して頂くようになり、地域の現状を伝えてもらっている。

地域生活支援 拠点等事業 検討会

- 地域あんしんコーディネーターの活動や空床2床の利用実績等の報告を受け、地域課題の解決に向けた検討を継続。7月より空床の配置を岳南1床、岳北1床に転換した。来年度以降も検証が必要。
- 「体験の機会・場」として、今年度4月から「一人暮らし体験事業」を開始した。1年間の実施期間を経て見えてきた課題等について整理し、来年度から検討を行っていく。
- 地域生活支援拠点等の機能を担う事業所について、報酬改定により加算対象事業が増えたため、改めて地域の事業所に協力依頼を行った。また、認定事業所連絡会を開催し、機能を担う事業所の役割を確認した。

【来年度に向けて】

各部会と連携しながら、障害福祉計画を推進し、地域に必要とされる取り組みや施策の実現に向け、協議を継続していく。